

平成30年度第1回坂井市子ども・子育て会議 議事概要

日 時	平成30年6月26日火曜日 午後7時～
場 所	坂井市役所 多目的研修センター 円卓会議室
出席者	委員：石川会長 水野副会長 堀田委員 伊東委員 奥原委員 平田委員 渡辺委員 堀内委員 近藤委員 森岡委員 長侶委員 内田委員 事務局：三田部長 西課長 坪内課長補佐 森田課長補佐 江川課長補佐
協議事項	(1) 平成29年度坂井市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について (2) 第2期坂井市子ども・子育て支援事業計画の作成について
提出資料	・坂井市子ども・子育て会議委員名簿 ・坂井市子ども・子育て会議の役割(資料1) ・坂井市子ども・子育て会議設置要綱(資料2) ・平成29年度坂井市子ども・子育て支援事業計画進捗状況_参考(資料3) ・第2期坂井市・子ども子育て支援事業計画作成に係るスケジュールイメージ(資料4) ・坂井市子ども・子育て支援事業計画 ・坂井市子ども・子育て支援事業計画(中間改訂版) ・平成29年度坂井市子ども・子育て支援事業計画進捗状況一覧

1 開会

2 委嘱書交付

3 部長あいさつ

【自己紹介】

【子ども・子育て会議の役割について事務局より説明】(資料1・2)

4 会長、副会長選出

【会長】

出席委員の確認12名全員出席。傍聴人なし。

5 議題

(1) 平成29年度坂井市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について(資料3)

【事務局より、資料に基づき説明】

【会長】

平成29年度の進捗状況ということ。全部で131の施策がある。計画通り進められているかどうか年度ごとにチェックしている。

この施策に係っている部局がたくさんある。子ども子育て支援の考え方のもとに様々な事業をつなげている。そこを一覧表にしている。

多くの事業で概ね達成できているという見方もできるし、できていないという見方もある。進捗状況についてご意見ご質問をお願いしたい。

追加資料については、計画通りにできなかったところをC・Dと評価している現状。8事業についてC・D評価がついている。昨年度もC・Dの評価があったものが含まれている。このまま続けていいものかどうか、事業そのものを見直したほうがいいのか、連続してC・Dがついてしまうとそのままでもいいのかどうか、事務局はいかがか。

【事務局】

例えば、事業28の「放課後子ども総合プランの推進」の子育て支援課の事業にDがついている。放課後児童クラブ。近年共働き等で子どもを見られない家庭が増えてきている。

児童クラブはスペースの問題がある。スペースが確保できれば受け皿を増やすことができるという事業である。支援員の数も40人に2人は法令上最低いなければいけない。この2点の問題がある。少子化ということもあり、小学校の空きスペースも有効に活用している。しかし、地域によって空き状況も違う。ニーズと施設スペースの空き状況、支援員の雇用のバランスが取れていないのでD判定となっている。今後もその点を検討しながら施策を進めていきたい。

【会長】

他にご意見ご質問はないか。

【委員】

事業28について、厳しい評価だが、学校が空き教室を開放して児童クラブを作っていくという考えか、近くに施設を設けてやっていくのか、やり方はいろいろある。

福井市で児童クラブを3つ小学校内で運営しているが、ハードルが高い。支援員の指導から、保育から含めてそんなに簡単にできるものではない。計画の中にしっかり入れ込んでいかないといけない。学校の空きスペースを使った児童クラブをどうしていくのか非常に難しい。

【会長】

学校教育の部局とも十分相談をされていると思うが事務局、なにかあるか。

【事務局】

学校の管理については、出入口、時間等、施設管理の面で学校にお願いしたい。空き教室を使用するには距離もあるのでなかなか難しい。当市では幼稚園の空き教室も利用している。

【会長】

話はしているようだが、ハードルが高い。そこを何とかしたいところである。

議題

(2) 第2期坂井市子ども・子育て支援事業計画の作成について(資料4)

【事務局より、資料に基づき説明】

【会長】

ただ今の説明についてご質問ご意見はないか。

第1期の事業計画を策定したときのスケジュールに、ほぼ倣うような形で進めていくという見通しでその過程で委員の皆さんに集まっていただき業務していきたい。

基本となるニーズ量を調査する作業がある。大きな方針を国が出してくることになっているが、現在はまだ出てきていない状況。

保育をめぐる環境が大きく変わっているので、小規模保育事業や企業型保育事業など、様々な保育の形態がある。従来の幼稚園、保育所、認定こども園など保育の形態が、十年前だけをとっても多様化している。そこへ保育の無償化の話が入ってくることが予想される。どのような事業計画にしていくかということで皆さんの様々な意見をいただきたいところである。

年々子どもは成長するので、妊娠期からずっと、就学前、義務教育まで支援を必要としている家庭もあるので、すべての子どもにとって住みよいまち、安心して産んで育てることができる坂井市、そのようなまちづくりをしていく上で、どのような施策が必要か、総合的な計画になっていくことが予想される。ご協力をお願いしたい。ご意見をお願いしたい。坂井市全体で、就学前保育の受け皿の現状を教えてほしい。

【事務局】

坂井市は定員3,900人となっており、そのうち9割は入所している。

【会長】

3歳未満児の入所希望が増えた傾向だが、受け皿は大丈夫なのか

【事務局】

地域の現状にもよるが、多少入所が困難な地域もある。無償化を捉えての見込みは厳しいところである。

【会長】

都市部ほどではないが、待機児童が出ないように。

【事務局】

保育所も、空きスペースはあっても、保育士がいないと（国のルールがあるので）、確保も難しい雇用の状況。保育士バンクを設置し潜在保育士を確保するようにしている。PRはまだ足りないが。

【委員】

資料3ページ。事業18の一時預かり事業とは、公立もやっているのか。

【事務局】

公立もやっている29年度は4園。30年度は5園になっている。
母親が一時的に子育てできない方のための預かりである。

【委員】

託児所くるみはどこにあるのか。

【事務局】

福井市である。

【委員】

利用者数は結構いるみたいだが。

【事務局】

記載のものは延べ人数である。

【委員】

4年と2年の子どもがおり、児童クラブに一時預かりをしている。
明章小は規模が小さい。また、祖父母等と同居はしているが家にいるという子ども達も友

達がないので、規定を緩和して2・3年生までみてほしい。

【事務局】

放課後児童クラブは国の制度であるため、あくまでも仕事で子どもを見る親がいない家庭のための事業である。委員がおっしゃるのは子どもの遊び場の問題か、児童館など・・・。

【委員】

明章には児童館はない。

【会長】

子どもの遊び場を坂井市としてどうつくるか。

【事務局】

地域の幅も広い、今市児童館があるが、低学年は自転車に乗れないため使いづらい。高棕コミセンがあるので、そのような機能を持たせるようになればいいと思うが。

【委員】

3年生以上でなければ地区外に遊びに行ってはいけないという決まりがある。

【事務局】

子どもの安全面を考えた上でのことだと思う。

【委員】

地域によっては下校時に一人になる場合もある。見守りもしているが、問題はある。

【委員】

小学校で児童クラブを行っているが、手狭な感じはある。管理上の問題もある。夏季休業など学校閉庁時にクラブを開けると管理はどうなるのか。

特別な支援を要する家庭、母親が増えてきているように感じる。

見守り隊は各学校によりバラバラである。コミセン主導、学校主導、など様々。整備が必要。いろんな人の力を借りないといけない。

【委員】

幼児教育の担当で、就学前の子どもや保護者とのかかわりが多い。ひとりひとりの学びにあった場を考えて対応をしていきたい。

【委員】

もっと一時保育のアピールを増やしていきたい。春江西保育園は土曜保育園の拠点となっている。多くの人数を受け入れている。未満児が半数以上。子どもを見守っていないといけないのが大変。

また、病児保育が各地区で増えている。保護者に紹介はするが、保育料とは別途利用料金が発生するため、なかなか制度を利用しないようである。

【会長】

今後は、医療的ケア児の受け入れも考えていかなければいけないところである。

【委員】

支援センターに通っている。子どもと二人きりだと、こもってしまうので母親同士話すと気持ちも楽になる。ママサークルもしているが、母親同士でいろんな行先を計画している。パンフレットもあまり坂井市にはない。どこに行ったらいいかわからない。みんなで散歩などの企画を考えている。ストレス発散になっている。母にも子どもにもいい影響となる感じがする。

保育園に入りたいが、春江はいっぱい三国か丸岡に行つてと言われた人がいる。坂井町でも人気の保育園はいっぱい、丸岡に通っているという母親がいる。今はいいけれど、小学校に入るときには周りに仲良しの友達がいなくなる。それでは大変。希望の保育園に入れるようになればいいと思う。

【会長】

そのような現実はあるのか。

【事務局】

そうです。

【委員】

A 評価事業 36。母子健康手帳の交付というところで、なぜアプリがないのか。あわら市はある。もっと自治体とつながりたい。子どもを持った時に。

【会長】

予算化できるとよいが。

【事務局】

そうです。実際あわら市で使用しているのは知っている。多分、検診の日程などがわか

るようになっているのか。手帳に記載の情報がすべて持てるようになるのではないか。健康部門にご意見を伝える。

【会長】

アプリの導入について、費用の見積もりをしてみてもどうか。事業計画の中に意見として盛り込むことはできると思うが。

【事務局】

できます。

【委員】

アプリのことで、ぜひあってほしい。予算、税込大変だが。課金をしてもよいくらい。

【事務局】

そのような場合は、ふるさと納税事業がある。坂井市が健康部門の事業を立ち上げて寄付をいただく手だてを取ることも可能。皆さんからの市に対する納税の仕方により事業施策を展開することは可能。

【委員】

2歳の娘がいる。加戸幼保園に入園しているが施設が古い。新しい園がうらやましい。園庭が駐車場になり広さが半分減った。また竹藪があり蚊が多い。虫よけの意味がない。少しずつでもいいので施設を改修してほしい。本当は未来保育園に入りたかったが、いっぱいなので加戸に来たということを聴くと悲しくなる。先生はとてもよいが。

【会長】

改修の事業計画はあるのか。老朽化している市町はここだけではないが。

【事務局】

順次、できる範囲内で改善をする

【会長】

子どもの安全と健康を優先で考えてほしい。

【委員】

県内6施設で子育て支援施設を運営している。全体で託児50人、子育て広場では一人が80組を見ている。児童クラブは福井市3か所で130人を毎日預かっている。この

15年で変わったこととは、就園率が0歳児から5割超え、1歳児からが7割超え、2歳児からは8割超え。0歳児前の妊娠から学童までを包括的にどう支援するか試行錯誤している。

「繋がる・広がる・育ちあう」という、地域でアウトリーチ型の支援を築かなければ、一人の出産した母親を産み育てやすい環境づくりはなかなか機能していかない。企業、行政だけでなく、地域の力をどう引き出すか。三位一体でしないと子育て支援はうまくいかない。坂井市の新しい計画づくりは地域のつながりを根付かせることが大事。いろんな企業の力を引き出したらよいのではないか。

【副会長】

娘が里帰り出産で、大阪から三国で二人目を出産した。三国や丸岡の支援センターに行ったところ、支援センターの先生が親切だった。私立公立に関係なく、利用できるのがありがたい。

無料で利用できる遊び場はいろいろある。ネット検索できる。各園開放デーもやっている。

【会長】

第2期の策定に向けていろんな意見をいただいた。ぜひこれからもこのように進めていきたいので、ご意見ご提言をいただきたいのでよろしくお願ひしたい。

6 その他

【今後のスケジュールについて、事務局より説明】

【会長】

今の説明について、何かご質問やご意見はないか。

【意見等なし】

【会長】

第1回目の会議ということで、顔合わせも兼ねてたくさんのご意見をいただいた。ぜひ今後の会合に活かしていきたいと思う。

7 閉会